

台風接近のため、開催日は11月23日に変更となりました。

令和6年

日時: 8月31日(土) 13:30  
16:30

場所: 西之表市民会館 ホール

入場無料・予約不要



種子島出身の西村天囚は「天声人語」の名付け親としても知られる漢学者・ジャーナリストです。その没後100年を記念するシンポジウムを開催しますので、是非ご来場下さい。

西村天囚

没後一〇〇年記念

シンポジウム



【第1部】講演

『漢学者西村天囚と横綱西ノ海  
二人をつないだ「孝」の思い』

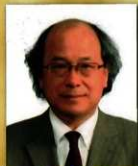
大正5年(1916)、西ノ海の横綱昇進を機に、天囚は相撲の歴史を振り返り、西ノ海を顕彰する碑文を作成しています。その内容を読み解きながら、二人をつないだ「孝」の思いに迫ってみましょう。

湯浅 邦弘氏 (大阪大学 名誉教授)

【第2部】パネルディスカッション

テーマ「西村天囚を語ろう 一次の100年のために」

西村天囚の生涯と業績について、中国思想、日本漢学、日中文化交渉史、懷徳堂研究などさまざまな角度から語り、種子島や西村天囚の魅力をどのように発信していけばよいか考えます。(司会:湯浅 邦弘)



陶徳民氏  
(関西大学 名誉教授)



竹田 健二氏  
(島根大学 教授)



町 泉寿郎氏  
(二松学舎大学 教授)



六車 楓氏  
(立命館大学 専門研究員)

西村天囚没後100年記念事業として、企画展を開催中です。また、西村天囚が撰文した石碑の解説小冊子も刊行しました。詳しくは右のQRコードより西之表市ホームページをご確認ください。



問い合わせ先

西之表市企画課歴史文化活用係 ☎0997-22-1111 (内線280)



## 【第2部】パネルディスカッション 「西村天因を語ろう -次の100年のために-」

西村天因の生涯と業績について、中国思想、日本漢学、日中文化交流史、懷徳堂研究などさまざまな角度から語ります。この記念事業を基に次の100年に向けて種子島や西村天因の魅力をどのように発信していったらよいか考えてみましょう。

### ★パネラー紹介★



とくみん

**陶 徳民** (関西大学 名誉教授)

中国上海生まれ、日本在住35年。大阪大学留学の1980年代後期から懷徳堂の研究を始め、西村天因とその恩師重野安綱や親友内藤湖南のことも研究している。東アジア文化交流学会初代会長。著書に『明治の漢学者と中国』など。



たけだ けんじ

**竹田 健二** (島根大学 教授)

島根県出身。2017年以降、種子島の西村天因関係資料の調査を行い、今回の訪問が15回目。明治末から大正にかけての懷徳堂顕彰運動の展開について研究中。著書に『市民大学の誕生』『懷徳堂研究』など。



まち せんじゅうろう

**町 泉寿郎** (二松学舎大学 教授)

北里研究所東洋医学総合研究所研究員を経て、2003年より二松学舎大学で教鞭をとる。専門は、日本漢学・日本医学史。西村天因が学んだ東京大学古典講習科について関心があり、現在、天因の日記や書簡を解読している。著書に『漢学と漢学塾 (講座 近代日本と漢学2)』など。



むぐるま かえで

**六車 楓** (立命館大学 専門研究員)

大阪大学大学院生の時から懷徳堂および西村天因関連資料を読み始め、昨年度から種子島での資料調査に加わり、天因の文章観について調査している。懷徳堂に関わる著書に『儒教の名句』上下巻など。



## 漢学者西村天囚と横綱西ノ海

二人をつないだ「孝」の思い

西村天囚没後一〇〇年記念シンポジウム講演

令和六年（二〇二四）十一月二十三日

大阪大学名誉教授 湯浅邦弘



種子島出身の漢学者「西村天囚」と横綱「西ノ海」の交流を、天囚が執筆した碑文に読み解く。二人をつないだ熱き思いとは何だったのか。

慶応元年（一八六五）西村天囚生まれる（名は時彦、別号に碩園）。

明治十三年（一八八〇）牧瀬休八（後の横綱西ノ海）生まれる。

明治十六年（一八八三）西村天囚、東京大学古典講習科入学。

明治二十三年（一八九〇）西村天囚、大阪朝日新聞社編集局員となる。

大正五年（一九一六）西ノ海、横綱に昇進。大阪学問所「懷徳堂」再建。

大正六年（一九一七）西村天囚、西ノ海顕彰の碑文を作成。

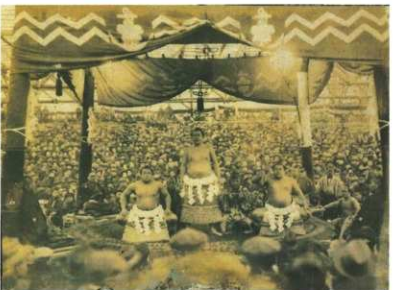
### 第二十五代横綱西ノ海土俵入り

大正八年（一九一九）一月二十七日  
九段相撲場（靖国神社）

太刀持ちは第二十六代横綱の大錦  
露払いには第二十七代横綱の栃木山

### 西村天囚「力士西海報恩碑」文

「怪力は得易く孝は得難し」

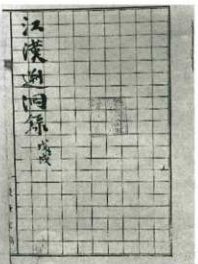


（写真提供・西村貞則氏）

パネルディスプレイ「西村天囚を語ろう―次の100年のために―」

(司会・湯浅邦弘) 陶徳民・竹田健二・町泉寿郎・六車楓

【1】『江漢遡洞録』(1898)



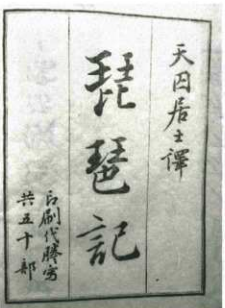
【2】天囚に贈った張之洞の書・録司馬公(迂書)(1898)



【3】三省堂出版の初の『漢和大字典』(1903)



【4】訳本『琵琶記』(1913)



【5】『楚辞要籍叢刊』(2020)



【6】修復前の『懷徳堂考之一』



【7】修復後の『懷徳堂考之一』



【8】竹簡（一部）出典：清華大学蔵戦国竹簡



【9】『論語』横浜国立大学附属図書館所蔵 出典：国書データベース <https://doi.org/10.20730/100339225>

子曰。學而時習之。不亦說乎。有朋自遠方來。不亦樂乎。

【10】西村天囚「評点学」

評点学  
曾子生。自。不。疑。燭。不。春。火。後。世。想。於。殘。遠。微。活。儒。

◎明治・大正時代を代表する漢学者・ジャーナリスト西村天囚の全容に迫る  
西村天囚没後100年記念出版『西村天囚研究』シリーズ第一巻

# 近代人文学の形成

## ——西村天囚の生涯と業績——

大阪大学名誉教授 湯浅邦弘 著

▼A5判上製・620頁・定価15,400円 ISBN978-4-7629-4271-6 C3321 2024年9月刊

「天声人語」の名付け親として知られる西村天囚は慶応元年（1865）、種子島の生まれ。東京大学古典講習科に学んだ後、その漢文力を活かして大阪朝日新聞で活躍した。当時の同僚には、夏目漱石、内藤湖南などがいる。

天囚は、大阪の歴史と文化を学ぶ中で、江戸時代の大坂学問所「懐徳堂」に共感し、その顕彰と復興を目指す。大正5年（1916）からは、再建された懐徳堂の教壇に立ち、京都帝国大学にも出講して漢文を教えた。

大正10年には宮内省御用掛を拝命して、東京に移転し、皇室や宮内省関係の文書の起草に尽力する。

その著書は、デビュー作となった社会風刺小説『屑屋の籠』、郷里種子島の鉄砲伝来の功績を讃える『南島偉功伝』、文学博士号を授与される要因となった主著『日本宋学史』、懐徳堂の顕彰運動の一環となった『懐徳堂考』など、膨大な数に上る。

しかし、大正13年（1924）に60歳で急逝したことから、その生涯と業績をたどる試みは、これまで充分になされていない。

そこで、天囚の没後100年を節目として、その思想と歴史的意義を多様な角度から考察する『西村天囚研究』シリーズの刊行を計画した。

本書はその第一巻として、種子島で発見された自筆草稿、遺墨、印章などの新資料も活用し、その生涯と業績の全容に迫る。末尾の第十一章「近代文人の知のネットワーク」は、西村天囚と関わりのあった著名人約230名の情報を種子島の西村家に残されていた貴重な写真とともに掲げる小事典となっている。

### 【内容目次】

#### 前言

#### 序章 西村天囚の生涯と著作

#### 第一章 遺墨に見る漢学の伝統——前田豊山・西村天囚の書——

前田豊山「立誠」——種子島に尽くした誠——／「百事無能」——生涯を掛けた種子島氏授爵——／「暗香浮動」——ほのかに漂う梅香のように——／西村天囚「金陵懐古」——天囚が懐古したものとは——／「君父師友」——前田豊山との記念碑——／「長生殿裏春秋富」——長寿と繁栄を折って——／「與君子游」——君子に感化される——／「仁道不遷」——「類書」を経由した揮毫——／「人生無根蒂」——退職の年に示す気概——／「蓬生麻中不扶而直」——天囚の絶筆か——

#### 第二章 印章に刻まれた思想——西村天囚旧蔵印の世界——

西村天囚旧蔵印の全容／蔵書印と碩園記念文庫本／字・号に関する印／思想と著作と印章と

【附録】 西村天囚旧蔵印の篆刻者



西村天囚

### 第三章 西洋近代文明と向き合った漢学者——西村天因の「世界一周会」参加——

第一回世界一周会と当時の世界情勢／第二回世界一周会の概要／西村天因の見た「世界」／「日本」の再発見／成功の要因とその後の世界一周会／漢学者と西洋近代文明

### 第四章 西村天因『欧米遊覧記』と御船綱手「欧山米水帖」——明治四十三年「世界一周会」の真実——

世界一周会と御船綱手／世界一周会の旅程／「欧山米水帖」全七十二枚の概要／西村天因の「題簽」と「題辭」／絵画における「真実」とは

### 第五章 大阪市公会堂壁記の成立——近代文人の相互研鑽——

中之島公会堂の誕生／岩本栄之助の寄附と新公会堂の建設／西村天因の「大阪市公会堂壁記」草稿／草稿批評と壁記成立の経緯／切磋琢磨する文人たち

### 第六章 白虹事件と西村天因

「筆禍」の歴史／白虹事件と「白虹貫日」の原義／故事成語としての「白虹貫日」／弁護団の釈明／西村天因の宣明文

### 第七章 鉄砲伝来紀功碑文の成立

西村天因と鉄砲伝来紀功碑／種子島鉄砲伝来紀功碑に基づく釈読／『碩園先生文集』所収「鉄砲伝来紀功碑」との比較／鉄砲館所蔵「鉄砲伝来紀功碑」草稿の解析／碑文に込めた天因の思い

### 第八章 懷徳堂の孔子祭——近代日本の学問と宗教——

懷徳堂と孔子／「懷徳堂にキリストと孔子の像を」／重建懷徳堂と孔子祭／孔子没後二千四百年祭の実態／その後の孔子祭

### 第九章 幻の御講書始——「詩経大雅仮楽篇講義」——

種子島で発見された講義草稿／天因と御講書始／御講書始の草稿／五種草稿の関係／「詩経大雅仮楽篇講義」の全容／『詩経』大雅仮楽篇の意義

【附録】草稿A「詩経大雅仮楽篇講義弁案」／草稿B「詩経大雅仮楽篇講義擬案」／草稿E「漢書進講大要」／草稿C「漢書進講大要」

### 第十章 未完の大作『論語集釈』

天因自筆草稿『論語集釈』の発見／「折中」「参看」「異説」「私案」の意味／近代日本の『論語』解釈

### 第十一章 近代文人の知のネットワーク——西村天因関係人物小事典——

天因関係書簡（懷徳堂関係者／朝日新聞関係者／学界関係者／文人・ジャーナリスト／政治家・実業家・軍人／薩摩・種子島関係者／宮内省関係者）／関西文人たちとの交流／晩年のネットワーク（関東大震災と「延徳本大学頒贈名簿」／天因の逝去と『碩園先生追悼録』）

### 終章「文会」の変容と近代人文学の形成

結語 事項索引／人名索引／中文要旨／中文目次

## 西村天因研究シリーズ A5判上製・全六巻

第三巻 西村天因研究——新資料の発見・整理と展望—— 竹田健二 編 【次回配本】

▼A5判・350頁・予価12,100円 ISBN978-4-7629-4273-0 2025年2月刊予定

以後続刊

第二巻 大阪の威厳——講演で読み解く近代日本—— 湯浅邦弘 著

第四巻 西村天因と近代日中文化交流 陶 徳民 著

第五巻 西村天因の懷徳堂研究 竹田健二 著

第六巻 西村天因の日記と書簡 町泉寿郎 著

#### ご注文について

最寄りの書店または、直接汲古書院までお申込下さい。電話、FAX、E-mailでもご注文いただけます。  
電話：03-3265-9764 FAX：03-3222-1845 E-mail:kyuko@fancy.ocn.ne.jp